

鳩峰峠広葉樹植林地の現在

高山の原生林を守る会では、2002～2008年の7か年にわたって鳩峰峠の牧草地で植林を行いました。当時は全国的に植林ブームで環境税など公的資金を活用した植林も行われました。その多くはブナ林の再生を目指したものでした。当会が実施した植林もブナ林再生を目指したもので、その経緯と内容は以下のようなものでした。

1. 植林地の由来: 国有地をJA高畠が借り受けて経営していた鳩峰牧場を閉鎖することになった。借地を国へ返還するためには現状復帰が条件とされていることから JA 高畠が広葉樹の植林を計画した。当会はこの事業に協力する形で参加した。

2. 標高は 700m～750m。現地はブナ林の開墾地であり、ブナの壮木が残っている。先駆的樹種のカバ類では、ハンノキの幼樹が既に育ちつつあり、マント植生ではタニウツギ、アキグミが再生定着していた。

3. 植林した樹種と選定理由

(1) 樹種: ミズナラ、コナラ、アカシデ、クマシデ、イタヤカエデ、トチノキ、ナナカマド

(2) 選定理由

① 自然遷移によるブナ林形成のための環境を整えるため、ミズナラ林を養成する。

② 翼果を持つ樹種(シデ類、カエデ類)を中心に植栽すれば、風によりかなりの範囲まで自然は種されるため、かなりの速さで二次林の復活が期待できる。

③ どんぐりを安定生産するミズナラ林を育成し、鳥類や小動物のえさを確保する。

当初は労働組合などの植林イベントも催されましたが、7年間継続的に実

施したのは当会のみでした。植林した苗は福島森林管理署を通じての購入苗が中心でしたが、試行的に現地のブナの芽生えを採取、各会員に養成されたものや会員のコナラの芽生えなども植樹しました。また苗の購入資金の一部として、当会や当会会員が所属していた福島山想会からの経費も充てられました。7年間で植栽した苗は約 2000 本、植栽に参加した会員は延べ 198 名でした。

今回の観察会では、マザーツリー近辺の生育良好なミズナラ、コナラ、クマシデ併せて5樹の樹高、樹幅、幹周(高さ70、130 cm)を測定しました。ナラ類は、樹高 3～5m まで達し、結実も確認されました。クマシデはナラ類より更に生育が良好でした。対照的にイタヤカエデは極めて生育が不良でした。ブナは、活着したもののナラ類よりは生育が劣っていました。ミズナラに隣接したマザーツリーの芽生えと思われるブナは比較的良好な生育をしていたことが注目されました。今回の調査から上記選定理由の3項目の内①、③は目的通り経過していますが、②のイタヤカエデについては見込み違いでした。

また、クマシデは山形県での自生地は極めて少ないことが植林後、判明しました。今後の生育経過を注視していきたいと考えています。なお、植林地ではブナ林では見かけることの少ないイノシシの砂浴び跡が広範囲で観察されました。攪乱により植生が変化するでしょうか。



ブナのマザーツリーと植栽樹



樹高測定



樹幅測定

植栽樹の樹体調査(測定日:2014/9/28)

No	樹種	樹高 m	樹幅 m	胴回り		植栽年
				70cm(分岐部)	130cm	
1	クマシデ1	4.5	5.0	46.5	—	2003
2	ミズナラ1	3.1	2.9	25.8	—	2003
3	コナラ1	4.9	2.7	20.4	17.9	2003
4	ミズナラ2	3.9	3.2	23.5	19.5	2003
5	コナラ2	5.1	3.2	22.7	20.3	2003